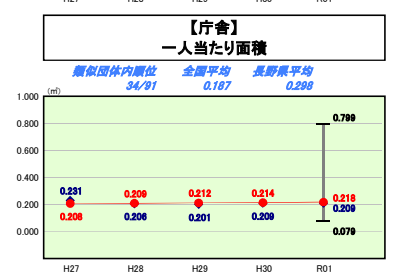
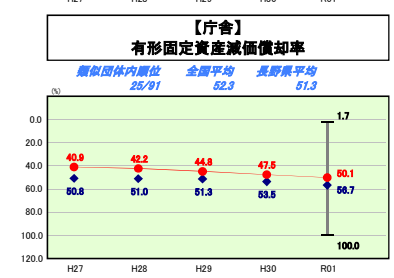
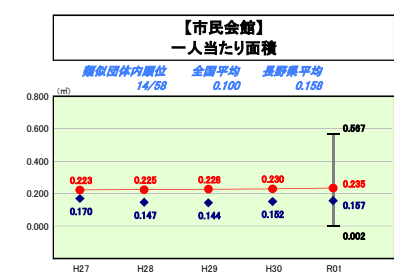
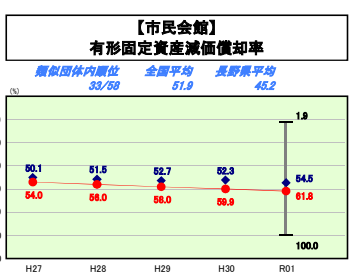
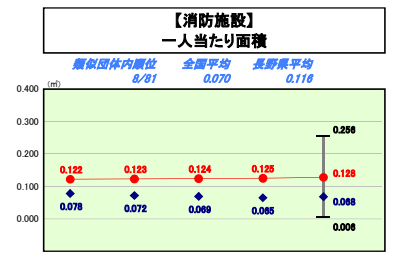
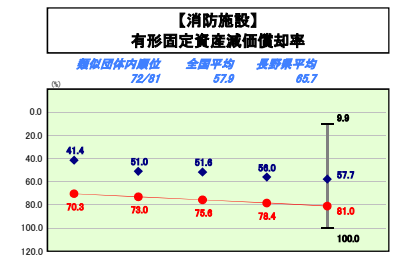
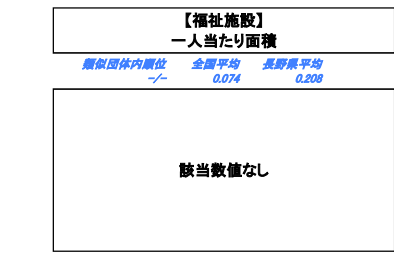
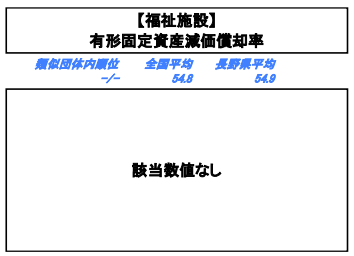
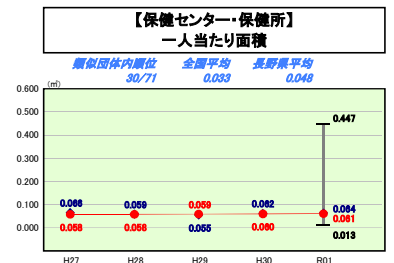
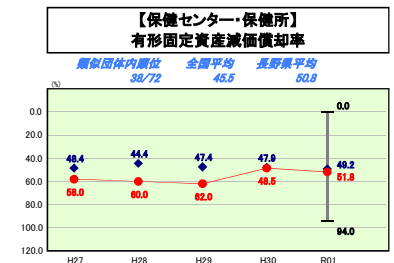
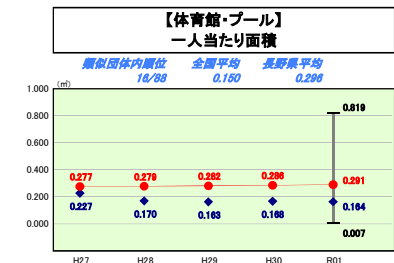
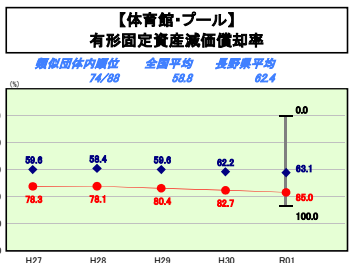
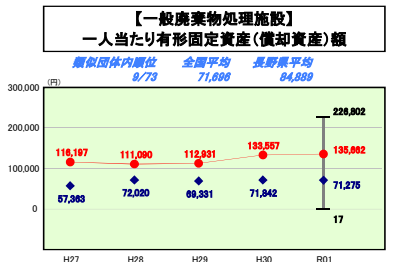
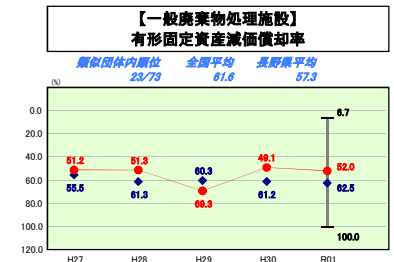
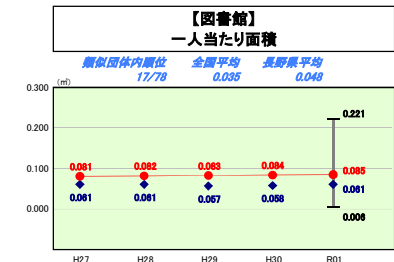
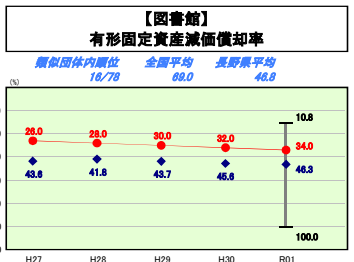


# (13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

人口	19,859	人(政.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	19,582	人(政.1.1現在)	道新実赤字比率	-	%
世帯数	66,87	千戸	実質公債費比率	4.8	%
歳入総額	8,726,008	千円	将来負担比率	76.4	%
歳出総額	8,414,779	千円	市町村類型	H27 V-1 H28 V-2 H29 V-2	
実質収支	310,941	千円	(年度毎)	H30 V-2 R01 V-2	
標準財政規模	4,790,336	千円			
地方債残高	9,856,867	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和元年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



**施設情報の分析値**

【図書館】有形固定資産減価償却率が類似団体内平均と比べて低くなっている。建築年が平成14年と他団体と比べ比較的新しいことが要因として挙げられる。現状では、大規模な改修等はないため、その都度修繕等により長寿命化を図っていく。

【体育館】有形固定資産減価償却率が類似団体内平均と比べて高くなっている。建築年が昭和52年と既に40年が経過していることが要因として挙げられる。平成20年度に耐震改修事業、平成27年度には給排水設備改修事業等の実施により長寿命化を図っているが、古い施設のため毎年不具合等が生じ、その都度多額の修繕費が掛かってきている状況である。今後は、個別施設計画等により計画的に修繕・改修等を行っていく必要がある。

【庁舎】有形固定資産減価償却率が類似団体内平均と比べて低くなっている。平成25年度～27年度において耐震改修事業を実施したことで、それ以前の減価償却率100%から47.5%まで数値が改善されている。

【市民会館】昭和62～63年にかけて建設した町総合文化センターは、減価償却率でみると58.0%とほぼ類似平均と遜色ない値となっているが、各所で経年劣化による建物の消耗や、ホールの吊物、照明など機械設備機器等の不具合も生じており、利用者に快適に使用していただくためにも早急に改修していく必要がある。